

建築工事監理指針（下巻）令和7年版 第1刷 正誤表

| 頁 | 章 | 節 | 項 | 項名称 | 箇所 | 誤 | 正 | 更新日 |
|----|----|---|---|-------------|-------------------------------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|---------|
| 22 | 11 | 2 | 5 | 張付けモルタル等の調合 | (1)モルタルの調合 (イ) (c) 1行目 | 目地幅が3 mm を超えるもの場合は、0.5 ～ 1.5 程度とする。 | 目地幅が3 mm を超えるもの場合は、0.5 ～ 2.0 程度とする。 | R8/6/11 |
| 27 | 11 | 2 | 6 | 施 工 | (3)床タイル張り (イ) (a)3行目 | この工法は、車や重量物が乗入れる場所を使用される。 | 削除 | R8/6/11 |
| 30 | 11 | 2 | 6 | 施 工 | (4)壁タイル張りの工法 (イ)密着張り (g)4行目 | 検査は、図11.2.17 に示すように、タイルを張り付けた直後に、 | 検査は、図11.2.16 に示すように、タイルを張り付けた直後に、 | R8/6/11 |
| 30 | 11 | 2 | 6 | 施 工 | (4)壁タイル張りの工法 (イ)密着張り (g) 図番号 | 図11.2.17 タイル裏面への充填性検査（密着張り） | 図11.2.16 タイル裏面への充填性検査（密着張り） | R8/6/11 |
| 31 | 11 | 2 | 6 | 施 工 | (4)壁タイル張りの工法 (イ)マスク張り (c) 1行目 | タイル裏面全面にモルタルを塗り付けるのに使用するマスク板（図11.2.18及び表11.2.7 参照）は、 | タイル裏面全面にモルタルを塗り付けるのに使用するマスク板（図11.2.17及び表11.2.7 参照）は、 | R8/6/11 |
| 31 | 11 | 2 | 6 | 施 工 | (4)壁タイル張りの工法 (イ)マスク張り (c) 図番号 | 図11.2.18 マスク板の形状の一例 | 図11.2.17 マスク板の形状の一例 | R8/6/11 |
| 33 | 11 | 2 | 6 | 施 工 | (5)まぐさ、窓台等へのタイル張り 3行目 | 設計図書で役物のタイル張りを指定された場合は、図11.2.19 及び図11.2.20 のような工法で行う。 | 設計図書で役物のタイル張りを指定された場合は、図11.2.18 及び図11.2.19 のような工法で行う。 | R8/6/11 |
| 33 | 11 | 2 | 6 | 施 工 | (5)まぐさ、窓台等へのタイル張り 図番号 | 図11.2.19 まぐさタイルの取付け 図11.2.20 窓台タイルの取付け | 図11.2.18 まぐさタイルの取付け 図11.2.19 窓台タイルの取付け | R8/6/11 |
| 33 | 11 | 2 | 6 | 施 工 | (6)斜め壁へのタイル張り 7行目 | コンクリート下地に固定して、タイル張りを行うことなど、タイル張りの剥落防止を優先する（図11.2.21 参照）。 | コンクリート下地に固定して、タイル張りを行うことなど、タイル張りの剥落防止を優先する（図11.2.20 参照）。 | R8/6/11 |
| 34 | 11 | 2 | 6 | 施 工 | (6)斜め壁へのタイル張り 図番号 | 図11.2.21 斜め壁のタイルの取付け例 | 図11.2.20 斜め壁のタイルの取付け例 | R8/6/11 |

建築工事監理指針（下巻）令和7年版 第1刷 正誤表

| 頁 | 章 | 節 | 項 | 項名称 | 箇所 | 誤 | 正 | 更新日 |
|-----|----|---|---|----------|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 44 | 11 | 3 | 5 | 施 工 | (1) 下地及びタイル ごしらえ (イ) 10行目 | モルタルの塗厚が薄すぎるとA種・・・ | 下地調整塗材の塗厚が薄すぎるとA種・・・ | R7/12/22 |
| 44 | 11 | 3 | 5 | 施 工 | (1) 下地及びタイル ごしらえ (イ) 17行目 | モルタルの浮きの原因と補修方法については、 11.1.4 を参照されたい。 | モルタルの浮きの原因と補修方法については、 11.1.6及び11.1.7 を参照されたい。 | R8/6/11 |
| 45 | 11 | 3 | 5 | 施 工 | (2) 壁タイル張り (7) 3行目 4行目 | 接着剤の塗布に使用するくし目ごては、一般的 に表11.3.4 に示すこてが使用される。 セメントモルタル張りのタイルは、裏あしが 高いため、表11.3.4 に示す接着剤の使用量と くし目ごてでは、 | 接着剤の塗布に使用するくし目ごては、一般的 に表11.3.3 に示すこてが使用される。 セメントモルタル張りのタイルは、裏あしが 高いため、表11.3.3 に示す接着剤の使用量と くし目ごてでは、 | R8/6/11 |
| 45 | 11 | 3 | 5 | 施 工 | (2) 壁タイル張り (7) 表番号 | 表11.3.4 接着剤塗布に使用するくし目ごての 種別 | 表11.3.3 接着剤塗布に使用するくし目ごての 種別 | R8/6/11 |
| 55 | 11 | 4 | 1 | タイル型枠先付け | (6) 材料 (ウ) 1行目 | タイルの試験張り、見本焼きは11.2.2(5) による ほか、スケジュールについて次の点に注意が 必要である。 | タイルの試験張り、見本焼きは11.1.4 による ほか、スケジュールについて次の点に注意が必 要である。 | R8/6/11 |
| 98 | 12 | 2 | 1 | 木 材 | (6) 合板等 (7) 合板 4行目 | 針葉樹ではC-D以上（C-Dは板面の品質） としている（16.7.2(2)(イ) 参照）。 | 針葉樹ではC-D以上（C-Dは板面の品質） としている。 | R8/6/11 |
| 103 | 12 | 2 | 2 | 接合具等 | (1) 釘等 (カ) 4行目 | JISでは、原則として、表12.2.8 の材料が規定 されているが、「標仕」では、ステンレス製と している。 | JISでは、原則として、表12.2.8 の材料が規定 されているが、「標仕」では、表面処理された 鉄製又はステンレス製としている。 | R8/6/11 |
| 144 | 13 | 2 | 2 | 材 料 | (1) (イ) (b) ステンレス 鋼板 ① 2行目 | 建材製品に使われる代表的な種類については、 14.1.5(3)(7)を参照のこと。 | 建材製品に使われる代表的な種類については、 14.1.5(4)を参照のこと。 | R8/6/11 |
| 158 | 13 | 3 | 1 | 一般事項 | (3) 3行目 | 具体的な品質管理項目は、表13.3.1を参照され たい。 | 具体的な品質管理項目は、表13.3.2を参照され たい。 | R8/6/11 |
| 158 | 13 | 3 | 2 | 材 料 | (2) 1行目 | 折板葺用に用いる材料は、「標仕」13.3.2(2) 及び(3)によって特記によるとされている。 | 折板葺用に用いる材料は、「標仕」13.3.2(2) によって特記によるとされている。 | R8/6/11 |

建築工事監理指針（下巻）令和7年版 第1刷 正誤表

| 頁 | 章 | 節 | 項 | 項名称 | 箇所 | 誤 | 正 | 更新日 |
|-----|----|---|---|-----------------------|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 158 | 13 | 3 | 2 | 材 料 | (3) 1行目 | タイトフレームの材料は、JIS A 6514 に基づき、原則として、JIS G 3302 : 2022（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）とされている。 | タイトフレームの材料は、「標仕」13.3.2(3)では、JIS A 6514 に基づき、原則として、JIS G 3302 : 2022（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）とされている。 | R8/6/11 |
| 162 | 13 | 3 | 3 | 工 法 | (1) (イ) 各部の納まり (a) けらばの納まり ① 2行目 | 特記がなければ、けらば包みによる方法とされている（図13.3.2 参照）。 | 特記がなければ、けらば包みによる方法とされている（図13.3.3 参照）。 | R8/6/11 |
| 162 | 13 | 3 | 3 | 工 法 | (1) (イ) 各部の納まり (a) けらばの納まり ② 2行目 | この場合、最端部の折板には、図13.3.3 に示す変形防止材を付けなければならない。 | この場合、最端部の折板には、図13.3.4 に示す変形防止材を付けなければならない。 | R8/6/11 |
| 193 | 14 | 1 | 3 | 工 法 | (1) 受材の取付け 5行目に追加 | 穿孔して、この穴にアンカーボルトを固着させる方法）とがある。 | 穿孔して、この穴にアンカーボルトを固着させる方法）とがある。 本章では、貫通する「孔」と、貫通しない「穴」とを分けて説明する。 | R7/10/30 |
| 214 | 14 | 2 | 1 | アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 | (3) 表面処理の適用箇所と使用環境 表14.2.2 環境別表面処理基準 注 4. 2行目 | 「建築用アルミニウム及びアルミニウム合金の着色塗膜」（表14.2.6参照）による。 | 「建築用アルミニウム及びアルミニウム合金の着色塗膜」（表14.2.4参照）による。 | R8/6/11 |
| 245 | 14 | 5 | 3 | 形式及び寸法 | 5～6行目 | 表14.5.2 に壁下地材の性能を、表14.5.3 に JIS A 6517 に規定されている壁下地材の構成部材の寸法を示す。 | 表14.5.2 に壁下地材の性能を示す。 | R8/6/11 |
| 259 | 15 | 1 | 2 | 基本要品質 | (3) 8行目 | この場合にあっては11.1.2を参照する。 | この場合にあっては11.1.7を参照する。 | R8/6/11 |
| 266 | 15 | 2 | 4 | ラス系下地 | (4) 施工 (ウ) 直張りラスモルタル下地 図15.2.3の名称 | 図15.2.3 直張り通気構法波形ラスの例 | 図15.2.3 直張りラスモルタル下地波形ラスの例 | R8/6/11 |

建築工事監理指針（下巻）令和7年版 第1刷 正誤表

| 頁 | 章 | 節 | 項 | 項名称 | 箇所 | 誤 | 正 | 更新日 |
|-----|----|---|---|-----------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------|
| 266 | 15 | 2 | 4 | ラス系下地 | (4) 施工 (ウ) 直張りラス モルタル下地 (a) 1行目 | (a) 防水紙の施工は、(4) (a) ②による。 | (a) 防水紙の施工は、(4) (ウ) (a) ②による。 | R8/6/11 |
| 294 | 15 | 6 | 2 | 材 料 | (1) 仕上塗材 (ア) 表15.6.1の タイトル | 表15.6.1 ホルムアルデヒド関連の規定（JASS 23：2006 解説表2.1.6 による） | 表15.6.1 ホルムアルデヒド関連の規定（JASS 23：2006 解説表2.1.8 による） | R8/6/11 |
| 301 | 15 | 6 | 2 | 材 料 | (1) 仕上塗材 (キ) 4行目 | それぞれの溶媒の違いによる上塗材の特徴を表 15.6.6 に示す。 | それぞれの溶媒の違いによる上塗材の特徴を表 15.6.7 に示す。 | R8/6/11 |
| 302 | 15 | 6 | 2 | 材 料 | (1) 仕上塗材 (ク) 2行目 | その概要を表15.6.7 に示す。 | その概要を表15.6.8 に示す。 | R8/6/11 |
| 302 | 15 | 6 | 2 | 材 料 | (2) 3行目 | その種類及び呼び名と適応は、表15.3.8 に示 しているので参照するとよい。 | その種類及び呼び名と適応は、表15.3.6 に示 しているので参照するとよい。 | R8/6/11 |
| 305 | 15 | 6 | 4 | 下地処理 | (1) 2行目 | 表15.3.7に示すセメント系下地調整厚塗材2種 等がある。 | 表15.3.6に示すセメント系下地調整厚塗材2種 等がある。 | R8/01/16 R8/02/18 |
| 305 | 15 | 6 | 5 | 下地調整 | (1) コンクリート (ア) 3行目 | 表15.3.7 に示すように、下地調整塗材C-1 は 0.5 ～1 mm 程度、 | 表15.3.6 に示すように、下地調整塗材C-1 は 0.5 ～1 mm 程度、 | R8/6/11 |
| 305 | 15 | 6 | 5 | 下地調整 | (1) コンクリート (ア) 6行目 | ただし、表15.3.7 の参考に記されているよう に、下地調整塗材C-2 及び | ただし、表15.3.6 の参考に記されているよう に、下地調整塗材C-2 及び | R8/6/11 |
| 309 | 15 | 6 | 7 | 所要量等の確認 | (2) 4行目 | なお、所要量の定義については、15.6.2(1) (ウ) を参照する。 | なお、所要量の定義については、15.6.2(1) (イ) を参照する。 | R8/6/11 |
| 309 | 15 | 6 | 8 | 外壁用塗膜防水材 （「標仕」以外の材 料） | 10行目 | W：外壁用の防水層（Wall）である。その工程 を表15.6.8 に示す。 | W：外壁用の防水層（Wall）である。その工程 を表15.6.9 に示す。 | R8/6/11 |
| 315 | 15 | 8 | 3 | 工程及び塗厚 | (1) (イ) 現場調合 せっこうプラス ター仕上げ 7行目 | なお、「標仕」表15.3.3 の塗厚の標準値は、 これを参考として一般的な場合について示した ものであり、 | なお、「標仕」表15.8.1 の塗厚の標準値は、 これを参考として一般的な場合について示した ものであり、 | R8/6/11 |

建築工事監理指針（下巻）令和7年版 第1刷 正誤表

| 頁 | 章 | 節 | 項 | 項名称 | 箇所 | 誤 | 正 | 更新日 |
|-----|----|----|---|---------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------|
| 320 | 15 | 9 | 2 | 材 料 | (6) 2行目 | 製造所では、表15.9.2 に示す粒度の砂若しくは粒度が5 ～6 号けい砂で、 | 製造所では、表15.9.1 に示す粒度の砂若しくは粒度が5 ～6 号けい砂で、 | R8/6/11 |
| 325 | 15 | 10 | 3 | 調合及び塗厚 | (2) 1～2行目 | 現場調合しっくい調合及び塗厚について、下地別の工程の例を、表15.10.7 及び表15.10.8 に示す。 | 現場調合しっくい調合及び塗厚について、下地別の工程の例を、表15.10.5 及び表15.10.6 に示す。 | R8/6/11 |
| 375 | 16 | 1 | 7 | 建具の性能等 | (4) 法令及びJIS (1) 法令(防火設備関連) (e) 特定防火設備の構造方法を定める件 | 改正 令和6年3月25日 国土交通省告示第227号 | 改正 令和6年3月26日 国土交通省告示第227号 | R7/12/22 |
| 381 | 16 | 2 | 4 | 形状及び仕上げ | (5) 2行目 | 特記がなければ、仕上げはHLとし、厚さは「標仕」表5.4.2 より1.5mm とする。 | 特記がなければ、仕上げはHLとし、厚さは「標仕」表16.2.4(4) より1.5mm とする。 | R8/6/11 |
| 391 | 16 | 3 | 5 | 工 法 | (2) コンクリート系下地及び鉄骨下地への取付け (7) 1行目 | (7) 建具の取付けは、16.2.5(2) (7) (1) による。 | (7) 建具の取付けは、16.2.5(2) による。 | R8/6/11 |
| 398 | 16 | 4 | 5 | 工 法 | (3) 1行目 | 鋼板の曲げ寸法の限度は、表16.4.2 のとおりである。 | 鋼板の曲げ寸法の限度は、表16.4.1 のとおりである。 | R8/6/11 |
| 398 | 16 | 4 | 5 | 工 法 | (3) 表番号 | 表16.4.2 端部曲げ寸法の限度 | 表16.4.1 端部曲げ寸法の限度 | R8/6/11 |
| 400 | 16 | 4 | 6 | 標準型鋼製建具 | (1) 6行目 | 戸の形状・寸法は、表16.4.3 のとおりであり、通常の事務庁舎等の | 戸の形状・寸法は、表16.4.2 のとおりであり、通常の事務庁舎等の | R8/6/11 |
| 400 | 16 | 4 | 6 | 標準型鋼製建具 | (2) の下部 表番号 | 表16.4.3 標準型鋼製建具と標準型鋼製軽量建具一覧表 | 表16.4.2 標準型鋼製建具と標準型鋼製軽量建具一覧表 | R8/6/11 |

建築工事監理指針（下巻）令和7年版 第1刷 正誤表

| 頁 | 章 | 節 | 項 | 項名称 | 箇所 | 誤 | 正 | 更新日 |
|-----|----|---|---|-----------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|---------|
| 478 | 17 | 1 | 3 | 性能 | (3) 変位追従性 (7) 層間変位追従性 (b) 性能値と要求性能 ② 3行目 | 中層建物での一般的な層間変位の値は、16.1.7(1) <u>(カ)</u> を参照するとよい。 | 中層建物での一般的な層間変位の値は、16.1.7(1) <u>(キ)</u> を参照するとよい。 | R8/6/11 |
| 493 | 17 | 2 | 3 | 形状及び仕上げ | (2) 仕上げ (a) アルミニウム ③ 塗膜 1行目 | 表面仕上げの種類とその特徴は、14.2.2 を参照されたい。 | 表面仕上げの種類とその特徴は、14.2.1 を参照されたい。 | R8/6/11 |
| 546 | 18 | 4 | 3 | 鉄鋼面の合成樹脂調合ペイント塗り | (2) 1行目 | 素地ごしらえ工程3「錆落とし」の後は発錆を防ぐため、標準工程間隔時間以内に次工程に移ることが重要であるが、 | 「標仕」表18.2.2「鉄鋼面の素地ごしらえ」の工程3「錆落とし」の後は発錆を防ぐため、標準工程間隔時間以内に次工程に移ることが重要であるが、 | R8/6/11 |
| 550 | 18 | 7 | 2 | 鉄鋼面の耐候性塗料塗り | (1) 材料 (7) ジンクリッチプライマー 1行目 | 18.3.2(2) <u>(エ)</u> を参照する。 | 18.3.2(2) <u>(ウ)</u> を参照する。 | R8/6/11 |
| 550 | 18 | 7 | 2 | 鉄鋼面の耐候性塗料塗り | (1) 材料 (4) 構造物用さび止めペイント 1行目 | 18.3.2(2) <u>(カ)</u> を参照する。 | 18.3.2(2) <u>(エ)</u> を参照する。 | R8/6/11 |
| 558 | 18 | 8 | 4 | 鉄鋼面のつや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り | (1) 材料 (4) 水系さび止めペイント 1行目 | 18.3.2(2) <u>(ウ)</u> を参照する。 | 18.3.2(2) <u>(イ)</u> を参照する。 | R8/6/11 |
| 559 | 18 | 8 | 5 | 亜鉛めっき鋼面のつや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り | (1) 材料 (7) 水系さび止めペイント 1行目 | 18.3.2(2) <u>(ウ)</u> を参照する。 | 18.3.2(2) <u>(イ)</u> を参照する。 | R8/6/11 |

建築工事監理指針（下巻）令和7年版 第1刷 正誤表

| 頁 | 章 | 節 | 項 | 項名称 | 箇所 | 誤 | 正 | 更新日 |
|-----|----|---|---|--------------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 582 | 19 | 2 | 2 | 材 料 | (8) 接着剤 (7) 床用接着剤の区分 (a) ①主成分による区分 1行目から 2行目 | 詳細は後述の「(ウ)接着剤の種類別特性」を参照。 | 詳細は後述の「(C)接着剤の種類及び特性」を参照。 | R8/6/11 |
| 591 | 19 | 2 | 3 | 施 工 | (4) 床シート類の張付け (カ) (c) 1行目 | (c) 継ぎ目処理剤（目地材）による工法（図19.2.9 参照） | (c) 継ぎ目処理剤（目地材）による工法（図19.2.7 参照） | R8/6/11 |
| 617 | 19 | 4 | 3 | 工 法 | (1) 下地 (イ) 下地の処理 (a) 1行目 | コンクリート床下地の表面は、突起、レンタンズ等のぜい弱な層があるため、 | コンクリート床下地の表面は、突起、 <u>レイタンズ</u> 等のぜい弱な層があるため、 | R7/10/30 |
| 667 | 19 | 8 | 3 | 施 工 | (2) 下地の乾燥及び処置 (イ) 1行目 | コンクリート及びALCパネル面の素地ごしらは、 | コンクリート面の素地ごしらは、 | R8/6/11 |
| 667 | 19 | 8 | 3 | 施 工 | (2) 下地の乾燥及び処置 (ウ) 2行目 | 特記がなければ継目処理工法の場合はA種、その他の場合はB種と規定している。 | 特記がなければB種と規定している。 | R8/6/11 |
| 668 | 19 | 8 | 3 | 施 工 | (2) 下地の乾燥及び処置 (イ) 1行目 | 「標仕」表19.8.1、表19.8.2、表19.8.3の素地ごしらは、吸込み止め（シーラー）を全面に塗ると規定している。 | 「標仕」表19.8.1の素地ごしらは、吸込み止め（シーラー）を全面に塗ると規定している。 | R8/6/11 |
| 790 | 22 | 5 | 6 | 試 験 | (2) 1行目 | (2) 舗装の平坦性の確認は、22.4.6(3)を参照する。 | (2) 舗装の平坦性の確認は、22.4.6(2)を参照する。 | R8/6/11 |
| 918 | 24 | 1 | 9 | 地盤の許容応力度との関係 | 告示の抜粋 第6 一 表中 長期に・・・の式 | $Ra = 1/3 \alpha \bar{N} Ap + (\beta \bar{N} sLs + \gamma \bar{q} uLc) \psi$ | $Ra = 1/3 \lfloor \alpha \bar{N} Ap + (\beta \bar{N} sLs + \gamma \bar{q} uLc) \psi \rfloor$ | R8/6/11 |
| 918 | 24 | 1 | 9 | 地盤の許容応力度との関係 | 告示 第6 一 表中 短期に・・・の式 | $Ra = 2/3 \alpha \bar{N} Ap + (\beta \bar{N} sLs + \gamma \bar{q} uLc) \psi$ | $Ra = 2/3 \lfloor \alpha \bar{N} Ap + (\beta \bar{N} sLs + \gamma \bar{q} uLc) \psi \rfloor$ | R8/6/11 |
| 919 | 24 | 1 | 9 | 地盤の許容応力度との関係 | 告示 第6 二 表中 長期に・・・の式 | $tRa = 1/3 \kappa \bar{N} Ap + (\lambda \bar{N} sLs + \mu \bar{q} uLc) \psi + wp$ | $tRa = 1/3 \lfloor \kappa \bar{N} Ap + (\lambda \bar{N} sLs + \mu \bar{q} uLc) \psi \rfloor + wp$ | R8/6/11 |

建築工事監理指針（下巻）令和7年版 第1刷 正誤表

| 頁 | 章 | 節 | 項 | 項名称 | 箇所 | 誤 | 正 | 更新日 |
|-----|----|---|---|--------------|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 919 | 24 | 1 | 9 | 地盤の許容応力度との関係 | 告示 第6ニ表中 短期に・・・の式 | $tRa = 2/3 \kappa \bar{N}Ap + (\lambda \bar{N}sLs + \mu \bar{q}uLc) \psi + wp$ | $tRa = 2/3 \lfloor \kappa \bar{N}Ap + (\lambda \bar{N}sLs + \mu \bar{q}uLc) \psi \rfloor + wp$ | R8/6/11 |